

## 創立二十周年記念祝賀会にて

末 綱 恕 一

### Address at the Twentieth Anniversary of the Institute

Zyoiti SUETUNA

今日は統計数理研究所の創立二十周年の記念日でありますから、簡単ながら祝賀のパーティーを催しましたところ、皆様御多用の折から御来会下さいまして、まことに御礼の申上げようも御座いません。

今度の大戦が次第に困難になりまして、軍需生産等が歴大になり、統計的の調査が必要になって参りまして、昭和18年12月に、今日の学術会議の前身である学術研究会議から建議が出され、昭和19年6月5日に、設立されたのであります。初め掛谷宗一先生が所長、総勢15名で、上野の学士院の一部に出来たのであります。当時はかねはあっても物がなくて買えないときで、学士院には御迷惑をかけました。

学士院に出来ました研究所は、昭和20年3月に、一部は信州飯田に、残りは高田老松町の細川邸に移転しましたが、終戦後昭和20年11月に、飯田に疎開した部分も細川邸に落着いて、一つになりました。昭和22年1月には、麴町東拓ビル内に分室を設け、その4月には、三軒茶屋に附属統計技術員養成所が設けられました。私はその年の5月から一年ばかり兼任で所長を致しましたので、当時の事情をよく憶えて居ますが、細川邸の部屋で、創立三周年記念の祝賀会を催すのに、ものがなくて苦心したことがあります。昭和23年2月には、本部も三軒茶屋に移り、6月には東拓ビルに居た研究室もここに引越しました。そして昭和24年9月には、細川邸に居た研究室が祖師ヶ谷の労働科学研究所の建物に引移りました。昭和26年6月に、本部も祖師ヶ谷の労研に引越し、昭和30年2月に、現庁舎に引移って、やっと一つに纏った次第であります。終戦後庁舎のことで是非常な苦勞を致しました。移転したのは、追立てられて引越さなければならなかったからで、細川邸に居ましたときも、細川さんが、東大の末綱というのに家を取られて居ると話して居られたとのことであります。現庁舎もまだ総理府からの借り物で、早く自分の庁舎が出来ることを、何よりも切望して居るのであります。

しかし庁舎のことで苦勞したのにも拘らず研究所は次第に拡充されて参りました。現状は先刻差上げましたパンフレットに書いてありますから、別に申上げませんが、機関紙としては、和文・欧文の二つを出して居ります。欧文の方は *Annals of the Institute of Statistical Mathematics* といって、昭和24年8月から出版し、和文の方は統計数理研究所彙報といって、昭和28年9月から出版して居ります。外に統計研究通信というのを出して居ります。欧文の *Annals* は、今日では国際的に重要な統計雑誌になって居る次第であります。

20年たちまして、我々の研究所がこのように成長して来ましたことに御援助下さいました皆様に、心から御礼を申上げます。特に二人の方に先刻所長室において、感謝状を差上げました。一人の方は前所長佐々木達治郎先生で、先生は昭和27年9月に所長に就任され、31年10月御病気のため退職になられ、今日御静養中であります。当時は日本の学術体制について論議の多かったときで、佐々木先生は研究所を整備するのに随分苦心をされました。また先生は数値計算の方の権威でありましたので、リレー計算機を考案されました。ここにある FACOM 第1号というのが、それでありました。研究所には幸にも昨年電子計算機が設置されましたが、FACOM から受けた恩恵は、数えき

れない程であります。

もう一人の方は斎藤育さんであります。斎藤さんは研究所創立のときから関与されまして、始めは参与とし、次ぎは評議員とし、昭和33年11月からは評議員会の会長として、研究所のために、全然無報酬で、色々として下さいました。私は東大の数学科において一級上で、よく存じ上げて居た所為もありまして、遠慮なく御厄介になりました。昭和36年1月、突然亡くなられましたときには、全く茫然と致しました。

佐々木夫人と斎藤夫人とに来て頂きまして、先刻感謝状を差上げたわけで御座います。

統計数理という学問は、御承知の通り、大戦後急激に発展致しまして、研究所にとっては、しなければならぬ仕事、是非してみたい仕事、幾らでもあるのであります。今後も研究所に対し何卒御支援下さるよう御願いしまして、私の御挨拶と致します。

(昭和39年6月5日、麻布プリンス・ホテルにおいて)

## 統計数理研究所創立20周年記念講演会

### Lectures at the Twentieth Anniversary of the Institute

昭和39年6月6日、創立20周年を記念して、統計数理研究所で次の様な記念講演会が催された。

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1. 末 綱 恕 一 (所長)    | 挨拶            |
| 2. 石 田 正 次 (第2研究部) | 統計と計算システム     |
| 3. 宮 川 洋 (東大工学部)   | 通信工学における統計的方法 |
| 4. 林 知 己 夫 (第2研究部) | 統計的にみた交通問題    |

以下に、この講演内容の要旨を示すことにする。

## 統計と計算システム

石 田 正 次

### Statistical Mathematics and Computer System

Masatugu ISIDA

現在行われている統計の計算にはいろいろな種類があるが、その主なものとして次のようなものをあげることができよう。

1. 集計
2. 基礎統計量の計算  
(平均, 分散, 共分散, 高次モーメントなど)